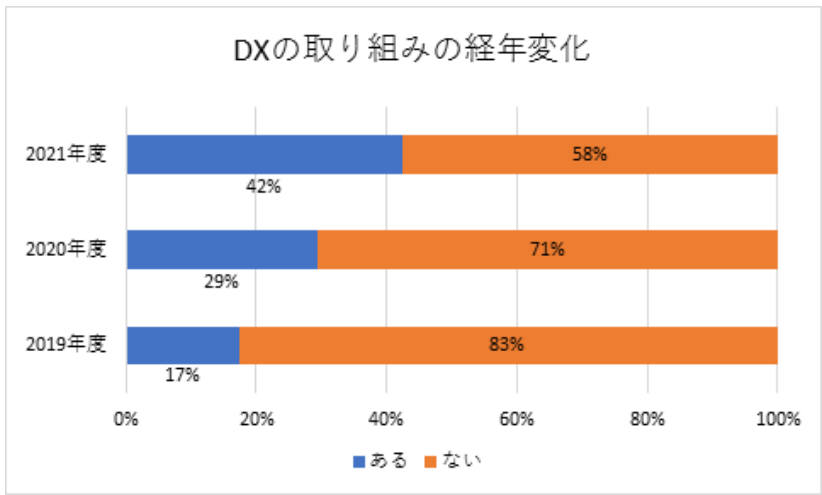
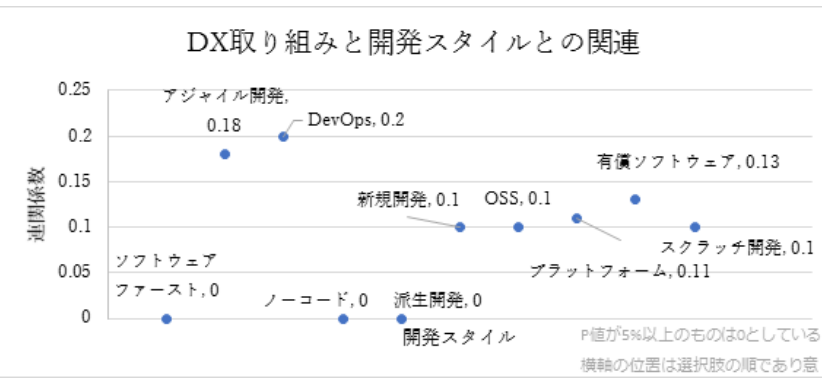


「2021 年度組込み/IoT 産業の動向把握等に関する調査」正誤表

2023 年 2 月 20 日

冊子 ページ	該当箇所	内容	
		正	誤
4.組込み系 技術動向分 析報告書 p.4,5,7,8	図 1.1	クラウドの経年変化(P 値 0.0% 連 関係数 0.15)	クラウドの経年変化(P 値 0.0% 連関 係数 0.14)
	図 1.2	IoT システム構築技術の経年変 化(P 値 0.0% 連関係数 0.14)	IoT システム構築技術の経年変化 (P 値 0.0% 連関係数 0.13)
	図 1.5	専用ハードウェアの経年変化(P 値 0.0% 連関係数 0.16)	専用ハードウェアの経年変化(P 値 0.0% 連関係数 0.08)
	図 2.1	SF×ノーコード「 0.145 」	SF×ノーコード「0.280」
p.18-21	4.2 節	当該の図と本文を正しい対象に 基づくものに差し替え	図 4.3 から図 4.9 の対象データ の間違いによる図と本文の言及
	4.3 節	4.3 節の本文を 4.2 節に移動	
p.27	6.4 節	DX の取り組みを多く実施してい る傾向にあることがわかった。一 方、アーキテクチャの見直し以外 の業務効率化や自動化、AI、セ キュリティなどの施策には差がな かった。	DX の取り組みやその他の施策を 多く実施している傾向にあること がわかった。一方、業務効率化や 自動化、AI、セキュリティなどの施 策は製造現場の有無に依らず、 ある程度実施されていることがわ かった。
組込み系 DX 取組分	図 1.1	当該の図を次のものに差し替え	2020 年度、2021 年度の数值(%) に誤り

冊子 ページ	該当箇所	内容													
		正	誤												
析報告書 p.4		<div style="text-align: center;"> <h3>DXの影響の経年変化</h3> <table border="1"> <caption>DXの影響の経年変化のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>ある (%)</th> <th>ない (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2021年度</td> <td>64%</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>2020年度</td> <td>38%</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>2021年度</td> <td>35%</td> <td>65%</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ある ■ない</p> </div> <p>図 1.1 DX の影響の経年変化(P 値 0.0%、連関係数 0.25)</p>		年度	ある (%)	ない (%)	2021年度	64%	36%	2020年度	38%	62%	2021年度	35%	65%
年度	ある (%)	ない (%)													
2021年度	64%	36%													
2020年度	38%	62%													
2021年度	35%	65%													

冊子 ページ	該当箇所	内容	
		正	誤
組込み系 DX 取組分 析報告書 p.5	図 1.2	当該の図を次のものに差し替え	2020 年度、2021 年度の数值(%) に誤り
		 <p>図 1.2 DX の取り組みの昨年度との比較 (P 値 0.0%、連関係数 0.19)</p>	
p.11	図 3.1	当該の図を次のものに差し替え	DX の取り組みと開発スタイルの関連 (アジャイル開発、DevOps、新規開 発、プラットフォーム、スクラッチ開 発)の数值に誤り
			

冊子 ページ	該当箇所	内容	
		正	誤
組込み系 DX 取組分 析報告書 p.12	図 3.2	当該の図を次のものに差し替え	DX の取組みとシステム要件の関連(A 技術複雑化, B 部品増加, C 対象増加, D 利用形態多様化, E 安全性向上, G 出荷先拡大, I データの企業間共有, JSoS, K 時間短縮, L 更新迅速化, M 運用データ活用)の数値に誤り
p.13	図 3.3	当該の図を次のものに差し替え	DX の取組みと要件変化への対応との関連(D プロダクトライン, E モデルベース開発, I 教育, K デジタルツイン) の数値に誤り

冊子 ページ	該当箇所	内容																	
		正	誤																
組込み系 DX 取組分 析報告書 p.14	図 3.4	当該の図を次のものに差し替え	DX の取り組みと技術優位性との関連(技術開発力, 品質, 自動化, 現場力, 対応力) の数値に誤り (商品企画・マーケティング)を追加																
		<table border="1"> <caption>DX取り組みと競争優位性との関連</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>連関係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>技術開発力</td> <td>0.16</td> </tr> <tr> <td>品質</td> <td>0.15</td> </tr> <tr> <td>商品企画・マーケティング</td> <td>0.14</td> </tr> <tr> <td>現場力</td> <td>0.15</td> </tr> <tr> <td>自動化</td> <td>0.12</td> </tr> <tr> <td>コスト</td> <td>0.09</td> </tr> <tr> <td>対応力</td> <td>0.19</td> </tr> </tbody> </table>		項目	連関係数	技術開発力	0.16	品質	0.15	商品企画・マーケティング	0.14	現場力	0.15	自動化	0.12	コスト	0.09	対応力	0.19
項目	連関係数																		
技術開発力	0.16																		
品質	0.15																		
商品企画・マーケティング	0.14																		
現場力	0.15																		
自動化	0.12																		
コスト	0.09																		
対応力	0.19																		
p.17	図 4.2	当該の図を次のものに差し替え	組織の方向性と DX の取り組みとの関連(パートナー, 技術提供, プラットフォーム提供, 新ビジネス提供, パートナー(5年後), 技術提供(5年後), プラットフォーム提供(5年後), 新ビジネス提供(5年後))の数値に誤り																
		<table border="1"> <caption>DX取り組みとDX方向性との関連</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>連関係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パートナー</td> <td>0.33</td> </tr> <tr> <td>技術提供</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td>プラットフォーム提供</td> <td>0.28</td> </tr> <tr> <td>パートナー(5年後)</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td>新ビジネス提供</td> <td>0.33</td> </tr> <tr> <td>プラットフォーム提供(5年後)</td> <td>0.28</td> </tr> <tr> <td>技術提供(5年後)</td> <td>0.25</td> </tr> <tr> <td>新ビジネス提供(5年後)</td> <td>0.30</td> </tr> </tbody> </table>		項目	連関係数	パートナー	0.33	技術提供	0.36	プラットフォーム提供	0.28	パートナー(5年後)	0.23	新ビジネス提供	0.33	プラットフォーム提供(5年後)	0.28	技術提供(5年後)	0.25
項目	連関係数																		
パートナー	0.33																		
技術提供	0.36																		
プラットフォーム提供	0.28																		
パートナー(5年後)	0.23																		
新ビジネス提供	0.33																		
プラットフォーム提供(5年後)	0.28																		
技術提供(5年後)	0.25																		
新ビジネス提供(5年後)	0.30																		